

幼子の名前はイエス

ルカ 2 : 15 - 21



司祭 ヨハネ 井田 泉

2018年1月1日
主イエス命名の日
奈良基督教会にて

「八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。」

ルカ 2:21

母マリアは天使ガブリエルから「その子をイエスと名付けなさい」と言われていました。父となることを引き受けたヨセフも、夢で天使から「その子をイエスと名付けなさい」と命じられていました。

その子の名はイエス。「イエス」とは「主（ヤハウェ）は救う」「神は救い」という意味です。神の救いをこの世界にもたらすために生まれた幼子の名前はイエス。誕生から8日目の今日1月1日に、幼子は正式にイエスと名付けられました。イエスの名はマリアから愛をもって呼ばれ、ヨセフから愛をもって呼ばれ、隣人たちから愛をもって呼ばれました。

ところでこのイエス命名の出来事を伝えるルカ福音書の中で、直接このイエスの名を呼んだ人たちがいるのだろうか。いるとしたらどんな人たちが「イエスよ」とイエスの名を呼んだのか。それが気になって調べて見ました。それほど多くはないので、短くたどってみます。

第1は、イエスが活動の拠点としておられたカファルナウムの町の会堂礼拝の最中の出来事です。イエスが説教をしておら

れる最中に、ある男が大声で叫びました。

「ああ、ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」 4:34

イエスを愛して慕い求めて叫んだのではありません。反対に憤りと憎しみをもってイエスに叫んだのです。この人は、イエスの言葉によって自分の深い所が脅かされるのを感じたのです。自分の奥深い所にある闇——それは神への反抗や人と自分への憎しみといったものかもしれません——がイエスによって暴き出されるのを感じた。

「正体は分かっている。神の聖者だ。」

言っていることは実に正しい。イエスの本質をはっきり認識しています。しかしそのイエスに救いを求めるのではなく、イエスを拒絶する。福音書はこの人のことを「汚れた悪霊に取りつかれた男」と表現しています。

これに対してイエスは「黙れ。この人から出て行け」とお叱りになった。すると「悪霊はその男を人々の中に投げ倒し、何の傷も負わずに出て行った。」

こうしてこの人は、自分の深いところから癒されたのでした。これがイエスの名を呼んだ第1の人です。

第2は、ガリラヤ湖の対岸、ゲラサ人の地方での出来事です。イエスが舟から陸に上がられると一人の男がやって来ました。長い間、服も着ないで墓場に住んでいる人です。

「いと高き神の子イエス、かまわないでくれ。頼むから苦しめな^いでほしい。」 8:28

第1の人の場合と似ています。彼もイエスの本質を見抜いている、はっきり感じているのです。彼はある種の力に捕らえられ、支配されています。彼を悪しき力が乗っ取り、占領し、支配しているのです。イエスが近づくと、その支配が危うくなる。それでその悪しき力はこの人に「イエス、かまわないでくれ」と言わせます。

イエスはこの人を支配していた悪しき力を追放し、この人は正気に戻りました。彼はイエスに従って行くことを願ったのですが、イエスはこの人を自分の家に帰らせられました。彼はイエスが自分にしてくださったことを町中に言い広めました。言い換えると、イエスの名を広めて伝道したのです。

イエスの名を呼んだ第3は、10人の重い皮膚病を患っている人たちでした。

「遠くの方に立ち止まったまま、13 声を張り上げて、『イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください』と言った。」 17:12-13

10人ともに癒されるのですが、神を賛美しながら戻って来てイエスに感謝したのは、一人のサマリア人だけでした。

第4は、エリコの町の道端で物乞いをしていた盲人です。イ

エスが通られると知って叫びました。

「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」 18:38

彼もまた癒されて、今度はイエスに従っていきます。

そして第5、最後にイエスの名を呼んだのは、イエスと一緒に十字架にかけられた犯罪人の一人です。

「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」 23:42

イエスは答えて言われます。

「はっきり言うておくが [直訳=アーメン、あなたに言う]、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」 23:43

ルカ福音書を調べてイエスの名を直接呼んだ人の例は、わたしが確認したところでは以上の5つです。もちろんルカ福音書本文に直接書かれていないとしても、イエスの名を口にし、イエスの名を呼んだ人たちは無数にいるはずです。

ただ今日たどってきた人たちから気づかされるのは、病を抱えた人、苦しみを抱えた人、殺されて死のうとする人——このような人たちが切にイエスの名を呼んだ、ということです。正しい人とは限りません。反抗する人、憎しみをもって叫んだ人たちもいる。しかしいずれの人も、イエスの名を呼ばずにはおれなかった。そしてイエスの名を呼んだ人たちを、イエスはだ

れひとり無視されませんでした。イエスの名を呼んだ人を、イエスはある場合には叱りつけ、ある場合には簡潔に指示を与え、ある場合には天国を約束されました。

そこで今日、年の初め、主イエス命名の日にわたしたちが決意したいことがあります。イエスの名を呼ぶことです。

もう少し自分を整えてからとか、もう少し元気になってからとかいうのではなく、今呼ぶのです。つらさや不安や困惑を抱えたまま、この好ましくない自分、悪しき自分を抱えたまま、イエスを呼ぶのです。

イエスの名を呼ぶわたしたちを、イエスが呼んでくださいます。そのようにしてイエスさまとわたしたちの関係が深まります。

そしてもうひとつ。あの墓場を住まいとしていた人が癒された後、イエスの名を広めたように、わたしたちもイエスの名を素朴に口にし、広めていきたい。それがこの年の初めの願いです。

祈りましょう。

主イエスさま、あなたの名を呼ばせてください。整わないま

までであっても、正しくなくても、好ましくないものを自分の中に抱えたままであっても、あなたの名を呼ばせてください。あなたはわたしたちの呼ぶ声を無視せず、必ず答えてくださいます。あなたの名を呼び、またあなたから呼ばれて、あなたとわたしたちの関係が深まるようにしてください。そしてまた、あなたの名を広めるわたしたちにしてください。幼子としてわたしたちのところに來てくださった尊いあなたのみ名をほめたたえます。アーメン